

町政モニターへは、会議で配布される資料や町職員の方々の説明から町政を身近に感じることができたのではないかと思います。

自分自身、政策評価に関して研究していることもあって町政モニターへ応募しましたが、これまで熊野町の町政に

関してあまり関心をもっていませんでした。しかし昨年7月からの町政モニターでの活動を通じて、ゴミ（不法投棄、ゴミステーション）や福祉、それに自治会に関する問題など、これまで関心を持たなかった問題についてモニターの方々の意見を拝聴し、多に勉強になりました。

これらの意見は、行政というサービスを提供する町職員の方々にとつても有益であったのではないのでしょうか。熊野町は「第4次熊野町総合基本計画」というすばらしい内容のものを作成していますが、異なった目線をもつ町民の声

を反映させることにより、確かな方向性を示すことができると思います。しかもモニターの方々の具体的な意見は、

町の示す各目標の指標になり得るものもあります。今後の目標に取り入れ達成度などを示すことができると、透明性を高めることができるとともに、数年後に基本計画を評価することも可能になると思われ

ます。モニターをはじめとして町民一人ひとりが、身近な地域、コミュニティに関心を持つことが重要です。また、町側もモニターの多様な意見を聴き、意見を町政に活用させてこそ町政モニターの意義があるのではないのでしょうか。今後の展開を期待します。

### 熊野町政モニター委員としての回顧

小西 延雄

平成12年7月より町政モニター委員として広報を以って委嘱されたのですが、当時の応募内容はた、広報にて町

政モニター委員を募集致しますと応募要領で、町は町政の何を求めて募集して委嘱されるのか、内容が詳しく書いてないのでわからないまま応募した訳ですが、私の思いとしては町と住民とのパイプ役とする、即ち住民の声を町との橋渡しをする役目ではあるまいかと私なりに思料し、熊野町を住みよい町にする主旨であれば微力ながら進んで参加したいと参加した次第です。

第1回の会議において、町の意向の主旨としては行政改革の大綱を軸に市町村合併問題の模索、ダイオキシン等の環境対策、学校教育の改革、筆の里の運営の対策、情報公開制度の設置、或いは福祉の問題、なかんづく老人介護保障の充実、行政評価の問題の分析など盛り沢山の案件の審議等、住民は行政に何を求めておるのかの住民の声をモニター委員はじかに評価して、その問題を分析して会議において町民の主旨を尊重し正しい行政を行つてもらうべくアドバイスする重要な職責であ

ることを痛感した次第です。

私は2期目の町政委員を務めて参り、会議において色々と案件に質問も致し、又提言も致しまして会議の運営に寄与致しましたが、モニター会議の提言で取り上げられた案件で町が取り上げて実施された件は先般配布のプリントを見れば2件との事で、権限もないモニター委員ではいくらか奇抜な提言であつても取り上げられないシステムでは所詮は無駄な事で社会的にも賢者であつても機構そのものに矛盾があれば協力しても意味がないのではあるまいか。

次に熊野町の町起しを考えるとすれば、熊野町の農地にハウス栽培の実行農家が私の見たところではお眼にかかった所がないと言ふことでは熊野の農家は主人は会社勤め、主婦はパートで田んぼはお米を作る時期のみコンバインで1日か2日で田植えは終わると言つた兼業農家で沢山農地を所要の地主は休耕田にして国より補助金を受給すると言ふことでは、熊野町は発展す

る訳がない。筆の里の知名度は高いが、筆のみでの生産では熊野町は発展しません。町は農林課を督励して休耕田を生かすことを考えて珍しい農産物を又果実の品種の変つたものをハウスで生産することを考えて地主を督励して生産することを実施せられては如何ですか。各地でテレビで放映されて大臣賞をもらった農家、苺の特大もの、大根の特大品種もの、梨の品種の変つたもの等農家も改革をする時機ではありませんか。2002年は物を考える年ではありませんか。IT産業も現在に行き詰まつており次を考



▲平成13年度の町政モニター会議の様子

(企画課TEL 820-5602)